

あきたの 地域医療通信

2019年3月 第33号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室



秋田県の北部に位置している大館市は糖尿病の専門医が2人、腎臓内科専門医が不在など、専門医が不足しています。その中で、医師会や開業医、保健師をはじめとして多職種の方々と共に、糖尿病の循環型地域連携パスをシステムとして整えられ、大館市の地域医療にご尽力されている池島先生にインタビューしました。

Q1. ご出身は？

A. 神奈川県横浜市です。弘前大学に入学し、その時に東北へ来ました。東北の生活はすぐに慣れることができ、特に苦労はありませんでした。雪へのあこがれもありましたし、山登りや釣り、スキーなどアウトドアでの活動が好きなので、自然に恵まれた素晴らしい環境だと感じています。

医師として働きはじめてからも、時間をみつけて、釣り、カヤック、マラソン、バードウォッチングなどを楽しんでいます。大館市を流れる米代川は、全国でもサクラマスや鮎釣りの聖地と言われており、とても魅力的な勤務地です。

Q2. どんな医師を目指していましたか？

A. 医学部に入学する前は、登山隊の医師など、病院の医師とは違う医師をしてみたいという憧れや、いつか医師のいないへき地において医療に従事したいという気持ちを持っていました。

Q3. 専門科を決めた理由は？

A. 例えば、糖尿病は、単純に血糖値だけを診ていれば良い診療科ではなく、患者の生活環境などいろいろなバックグラウンドを含めて、総合的に診察しなければなりません。また、糖尿病は慢性疾患であり、いろいろな疾患に繋がっていく可能性がありますから、そういった面も含めて、総合的に考えなければならぬ病気です。合併するいろいろな疾患については、治療ができなくても、ある程度診断をして、適切な専門科に紹介するなどの判断も必要となります。



大館市立総合病院 内分泌・代謝・神経内科 部長
池島 進 先生

【プロフィール】

神奈川県出身。弘前大学卒業後、青森県立中央病院にて研修。2000年弘前大学医学部内分泌代謝内科入局。北秋中央病院(当時)、青森県立中央病院を経て、2007年4月より大館市立総合病院にて勤務。

糖尿病地域連携パス

「糖尿病地域連携パス」は、2014年から大館市立総合病院と連携する施設にて患者情報の共有を目的としてスタートした。

対象患者は、6か月以上HbA1c7.0%未満で合併症ハイリスクではない方で、診療所と大館市立総合病院の医師による2人主治医制に同意している方。

これまでに約350人が連携パスの対象となっている。血糖コントロールの悪化やその他疾患合併などにより約20%がパスを離脱したが、ほとんどの患者は大館市立総合病院で治療継続しており、完全中断に至ったケースはほぼない。

糖尿病だけではなく、付随するいろいろな疾患は経験も知識も試されるため、大変ではありますがその分、面白味も大きかったことから、内分泌・代謝・神経内科を専攻しています。

Q4. 地域医療について

A. 大館市に限らず、秋田県、青森県、東北地方では医師の数もそうですが、専門医が不足しています。例えば、私は現在、糖尿病性重症化予防の一環として、糖尿病性腎症の透析予防などをやっていますが、常勤の腎臓専門医がいません。他科の話になりますが、循環器であればPCI治療が必要な場合は、弘前か秋田に搬送することになります。専門治療の一部が、当地区で受けられないということが必ずあるので、そういう部分では大変です。

一方、地域全体で一緒になって取り組んでいく、という意味で、大都市では難しい取り組みも、当地区規模では比較的まとまりやすいという良い一面もあります。

私は、現在、行政の保健師さんや調剤薬局の薬剤師さんなどと共にいろいろ連携を始めています。地域として大きすぎず、やりやすいと感じています。この取り組みを通じて、多職種の人たちと、一緒に何かを企画して作り上げていくという面白味も感じています。

私が大館市に来た時は、糖尿病の連携パスというシステムはなかったので、まずは連携パスの整備から始めました。この連携パスが直接、行政との連携などにつながったわけではありませんが、連携パスを通じて地域と顔の見える関係ができ、結果として地域で取り組む透析予防に繋がっていった面はあると思います。地域のみんなと、一緒に考えながらやっていくというのは、都会ではなかなか難しく、病院内で完結するだけで精一杯だと思います。糖尿病診療では血糖値を下げる、合併症を治療するのはもちろんですが、糖尿病にならない、合併症を出さない・重症化させないという予防医学でもあります。この予防医学は病院内だけの医療では不可能であり、周囲の協力がとても重要となってきます。

透析患者について、大館市からいただいたデータによると、年間4人予防することができれば、大館市の透析患者は減少に転ずるといった計算結果が出ています。逆を言えば、適当な医療で透析患者が4人増加してしまえば、地域全体の透析患者が増加するため、この地域の医療の破綻にも繋がりがかねません。それくらいの責任がありま

す。しかし、コミュニティが小さいほど結果はすぐに出てくるだろうし、やりがいも得ています。

今後としては、地域全体の患者データを把握し、受診が必要なハイリスク患者を自動的に見つけ出し、適正な病院受診に繋げられるシステム作りが必要になってくると考えています。今は健康診断の中からハイリスクな人を見つけ、主治医や当院に保健師さんからの連絡が入るようにしていますし、当科の外来に関してもハイリスクな人を自動的に抽出できるようにしています。しかし、診療所や他院などに通院している患者さんまでは把握できていないので、そのデータを一元化し、市全体で重症化予防に繋がるシステムを構築し、透析患者さんを減らしていきたいと考えています。

Q5. 医学生・研修医・若手医師へのメッセージをお願いします。

A. 学生の時は、いっぱい色々な経験をしました。若い時の経験は、何らかの形で役に立つので、皆さんもいろいろな経験をしてみてください。自分自身として現在一番困っているのは英語で、今になってその大切さを痛感しています。

医師として大切なことは、何か疑問を持ったら、すぐに行動する「行動力」です。気になったことをすぐ調べるとか、患者さんのところに行って状態を確認するとか。慣れてしまうと経験で惰性的に判断してしまうこともあり、これは私への苦言でもあります。疑問に感じたことは、すぐに調べる。その積み重ねが大事だと思いますので、面倒くさがらず、まずは行動することを忘れないでください。



イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)
4月 5日(金)	平成31年度新医師歓迎レセプション	初期研修医	ホテルメトロポリタン秋田(秋田市)	秋田県医師会 TEL:018-833-7401 FAX:018-832-1356

修学資金のお知らせ

秋田県では、将来、県内の公的医療機関等において医師として地域医療に従事しようとする医学生に対し、修学資金を貸与しています。平成31年度の募集については、医師確保対策室あてお問い合わせください。

項目/区分	医学生修学資金【市町村振興枠】
貸与対象者	医学生 ※公立私立、学年、出身地は問わず
貸与額	・月額15万円（自宅通学者は10万円） ・入学金相当額（1年生に限る）
貸与期間	大学卒業まで（最長6年間）
返還免除要件【勤務先】	・大学卒業後、1年6ヶ月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 ・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等で勤務 ・知事指定勤務先は、自治体病院・診療所が優先（ただし診療所の勤務にあつては1年を限度とする）
返還免除要件【診療科】	限定なし
返還免除要件【勤務期間】	貸与期間の1.5倍の期間

秋田大学医局紹介

秋田大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝・老年内科学講座

当講座は1994年に発足し、以来、糖尿病・内分泌疾患を中心に診療・研究してまいりました。また、最近では老年医学にも力を入れております。その中でも糖尿病は年々その有病率が増加し、平成28年には糖尿病が強く疑われる人の数は1000万人を突破しました。そのため、糖尿病を診療する医師の必要性が高まっております。

私たちの講座は、糖尿病専門医、内分泌・代謝専門医、老年病専門医の認定教育施設となっており、それぞれ複数の専門医を擁していることから診療や研究だけでなく教育の観点からも充実した施設です。また、私たちの医局では子育てをしながら働く女性医師が多く、男性医師も子育てに協力的な医師が多いことから非常に働きやすくアットホームな環境かと思えます。

私たちは、秋田県の糖尿病患者さんの健康寿命を延ばし、生活の質を向上させるべく日々診療・研究

に邁進しており、またこうした志を持つ医師の育成にも力を入れております。



問い合わせ先

秋田大学大学院医学系研究科
内分泌・代謝・老年内科学講座
助教 佐藤 雄大

e-mail: takehiro@med.akita-u.ac.jp

Tel: 018-834-1111 (病院代表)

構成員: 医局員18人、指導医7人、後期研修医4人、
総合内科専門医10人、糖尿病専門医14人、
内分泌・代謝専門医3人、老年病専門医2人

指導医メッセージ

市立横手病院
消化器内科

奥山 厚 先生



皆さんは医師として仕事をする上で、どんなことを意識していますか？私にも日々気をつけていることがいくつかあります。

【十分伝わるように、そして微笑みを】患者や家族に良くな

い知らせを伝える場面は多いため、ゆっくりと繰り返し話し、最後は希望を与え微笑んで締めくくられるように。

【謙虚であれ】決して偉ぶらず、患者もスタッフもリスペクト。

【病院内は階段移動】エレベーターは使わずサルコペニア予防。

他にもありますが、このようなことを意識しながら研修医とともに働いています。

当院は土地柄が穏やかな職員が多く、働きやすい環境であると確信しています。また、消化器内科を希望する若手医師は、内視鏡を中心とした検査・治療に積極的に携わることができると、初期研修医であってもかなりの経験を積むことが可能です。雪が多い横手ですが、スポーツや芸術イベントもたくさんあります。幻想的なかまくら祭りでの一杯も魅力的です。皆さんも当院に仲間入りしませんか。

研修医メッセージ

能代厚生医療センター
竹内 明 先生
(岡山大学・岡山県出身)



早いもので岡山を出てからもう一年が経とうとしています。縁あって能代に初めて訪れたのは3年前の6月でした。その後何度か当院を見学し、研修病院に決めました。数ヶ月前から雪国生活を経験し、初めてのことがばかりで退屈しない日々です。

さて、当院の研修プログラムの特徴は研修スケジュー

ルの柔軟性です。少人数制ですので、ほぼ希望通りのローテーションが可能であり、2年の間に興味や志向が変われば、それに合わせて診療科を変更することも可能です。また、職場環境が整っており、非常に働きやすいことも特筆すべき点です。みなさんが研修病院に求めるものはそれぞれ異なると思います。自分のことを振り返ってみると、実際に見てみなければ分からない部分が決め手になりました。県内出身の方はもちろん、県外の方にもおすすめできる魅力ある病院ですので、ぜひ一度見学にいらしてください。病院を挙げて歓迎いたします。

MESSAGE

秋田県立医療療育センター

〒010-1409 秋田県秋田市南ヶ丘一丁目1番2号 TEL: 018-826-2401 HP: <https://www.airc.or.jp/index.html>

秋田県立医療療育センターは、平成22年4月秋田市南ヶ丘にあります「あきた総合支援エリアかがやきの丘」の中に、秋田県の療育の中心機関としての役割を担うべく開設されました。現在、当センターの業務は、病院として小児神経・小児整形・児童精神・障害児歯科・障害児を中心とした小児リハビリテーションなどの入院・外来での診療業務、さらに医療型障害児入所施設、児童発達支援センター、発達障害者支援センター「ふきのとう」、生活介護事業所「よつ葉」など多岐に渡っており、年間の新患者数は同年代のお子様の12~13%前後に相当する数で推移しており、「療育」として発達に支援が必要なお子様のほとんどを対象としております。今後もそれぞれの事業分野で、医師を始めとする様々な職種のスタッフが、「みんな健やかに」を念頭に、安全で良質な医療・療育・福祉サービスの提供を目指し、県民の皆様のご期待にお応えできるよう努めてまいります。

… お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel. 018-860-1410

